

学生を主体とした図書委員会活性化の試み ——恒常的活動を目指して——

奈良工業高等専門学校 ○鍵本有理, 武田充啓, 安田智之, 名倉誠

1. まえがき

奈良高専（以下、本校）は、図書館の学生貸出数が高専の中でもトップクラスであり、例年全国で3～4番目となっている¹⁾。以前より学生の組織として図書委員会が存在していたが、2004年度に教員の組織として「情報メディア教育センター運営委員会」

（以下、メディア委員会）が発足し、学生図書委員会の指導に当たることになった。本校では従来、教員組織として学生側と同じ名称の「図書委員会」が存在し、学生図書委員会を指導していたが、それに総合情報センターの業務を付加する形で組織を再編したものである。センター長（1名）と副センター長（図書担当1名、マルチメディア担当1名）、各科選出の委員からなり、2004年度から図書担当副センター長となった武田が学生の図書委員会を活性化させる取り組みに着手、2007年度には安田、2008～2010年度には鍵本、そして今年度は名倉がその指導を担当している。具体的には、毎月1回の図書委員会開催と、毎年秋の読書週間に合わせた企画展示、以前から行われていたブック・ハンティングの方法改善などである。以下はその実践報告である。

2. 読書週間の取り組み

毎年10月27日から11月9日の「全国読書週間」の期間、本校では以前から教職員による展示を行っていたが、2004年度からはこれを学生図書委員会で行うこととした。学生が自分達でテーマを決め、展示の企画から準備までを担当する。以下はこれまでに取り上げたテーマ一覧である。

- 2004年度 オリンピックとパラリンピック
- 2005年度 宇宙について
- 2006年度 脳をきたえる
- 2007年度 映画化された本の紹介
- 2008年度 有名人の本
- 2009年度 作家のデビュー作
- 2010年度 最新技術に関する本

まず学校内での宣伝のため、ポスターを学生に作らせることとした。パソコンの扱いに慣れた学生も多く、毎年気のきいたポスターができあがる。その掲示場所やクラスでの宣伝方法についても学生に議論させたうえで決定した。

さらに、展示を見に来た学生に、テーマに関する

簡単なクイズとアンケート（任意）を記入してもらい、クイズの正解者の中から抽選で3名に図書カードを贈呈することとした。また、2009年度からは簡単な展示目録（A5のリーフレット）を用意し、全教員にも配布して、この企画についてアナウンスした。

このように図書委員以外の学生や教員にもこの行事を知ってもらえるよう工夫した結果、一定の効果はあったようである。上述のクイズ・アンケートについて、回答者数は年々増え、2008年度は32名、2009年度は69名、2010年度は76名となった。また2009年度からこのアンケートに「読書週間の企画展示を何によって知ったか」（複数回答可）、という項目を設けたところ、いずれもポスターの効果がうかがえる回答であった（表1）。

表1 読書週間アンケート結果

項目	回答数	
	(2009年度)	(2010年度)
ポスターを見て	34	34
展示を見て	23	29
友達から聞いて	14	11
その他	3	3

なお、本校はこの時期高専祭など他の行事が重なっており、展示を見る時間がないという面があった。そこで、2009年度より展示期間を1週間から10日間程度延長したことも功を奏したようである。

教員の役割としては、テーマの設定の際、最初は漠然としたものが提案されることが多く、具体的なものに絞り、話題のものを取り入れるようアドバイスをする必要がある。また、図書館職員の協力も得てテーマに沿った書籍の有無を調べ、所蔵されていない図書の購入手続き、他の学校行事を勘案して上記の展示期間延長の助言などをしなければならない。その他、実際に展示の準備をしている場で、たとえば金モールなどのディスプレイ用品を使うことを促すだけで、より見栄えのするものができあがる。教員が第三者の目線に加わり、適切な助言・指導を行うことでこの行事が定着してきたと考える。

3. ブック・ハンティング

他の大学・高専等でも行われている行事であるが、

【連絡先】〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町22 奈良工業高等専門学校 一般教科

鍵本有理 TEL:0743-55-6057 FAX:0743-55-6069 e-mail:kagimoto@libe.nara-k.ac.jp

【キーワード】委員会活動, 図書館, 選書, 主体性

本校では以前は地元大和郡山市内の書店などで行っていたものを、2004年度より大阪の大型書店を利用するようになった。毎年6月と11月の2回実施し、毎回30名近い学生図書委員が参加する。

この行事についても、事前の図書委員会で集合方法などを確認させ、当日の出席確認は図書委員長に行わせるなど、学生の主体性を重視しながら、下記のような方法を工夫し、学生への指導を行った。

- 事前に各クラスで購入希望図書を聞き、すでに本校図書館に所蔵されていないかチェックして希望図書一覧のリスト(様式あり)を作成する。
- 集合場所での混雑を避けるため、低学年や初めて図書委員になった学生と、経験のある学生とを分けて書店内に入れるよう時間差を設ける。
- 終了時には、アンケートを記載した用紙を配布し、反省点や前述した読書週間の企画などについて意見を記入して、後日図書館に持参する。

最後のアンケートは、これをもとに次回委員会での話し合いをさせると有効であることから実施した。

学生の中には初めて大型書店に行って戸惑う者もいるが、世の中にこのように多くの本が流通していることを実感させるよい機会となる。また、事前に本のリストを準備させることで、初めて参加した学生でも、当日の本の選定作業がすみやかに行える。

なお、2008年度からは、専攻科生も1~2名参加できるようにし、各専攻からの希望を事前に取りまとめさせるようにした。

4. 年間の活動状況と選書

以上述べた読書週間の展示やブック・ハンティングの活動などは、すべて毎月定例の学生図書委員会活動が基本となる。以下、その年間スケジュールを示す。

- 4月 役職者の決定(委員長・副委員長・会計)、連絡方法の確立、年間予定
- 5月 第1回ブック・ハンティングの計画
- 6月 ブック・ハンティングの反省
読書週間について概要説明
- 7月 読書週間の企画・テーマ決定
- 9月 読書週間の準備計画
- 10月 第2回ブック・ハンティングの計画、
読書週間の企画(毎週木曜に準備)
- 11月 第2回ブック・ハンティングの反省、
読書週間展示撤収・反省
- 12月 1年間の反省(年度によっては、この
時にブック・ハンティングの反省)
- (1月 特に選書等の必要があれば開催)

毎回の委員会では学生から出されたリクエスト(購入希望図書)についても、学生自身で審議させている。その後、教員の組織であるメディア委員会での審議を経て、最終的に購入の可否を決定する。

書籍の選定については、前述したブック・ハンテ

ィングにおいても、下記に掲げたような本校図書館の選書方針もプリントを配布して説明し、学生自身にも図書館のあり方を考えさせるよう心がけた。

《本校図書館の選書方針》

- ・楽譜や漫画、組み立て部品を含む図書(模型などの付録がつくもの)は原則として購入しない
- ・継続して出版されているものは購入しない
(新規の雑誌受け入れは行わない、またいわゆる「ライトノベル」の4巻以降にあたるものも購入しない)

図書館における「選書」、つまり本の選択には利用者(学生)からのリクエストも必要な要素である。しかしながら、全てを利用者にゆだねるのでは、図書館としての責任が果たせない。図書館と利用者との共同作業によって、選書は行われるものである²⁾。なお、本校では1人あたりの貸出数の多いクラス・専攻を表彰するという「多読表彰」も実施しており、この副賞も希望図書購入の権利とし、リストを図書館に提出してもらうようにしている。

このように学生による選書のシステムを取り入れることで、工学系書籍の充実や最新刊の小説類購入を効果的に行うことができる。

5. むすび

高専における恒常的な学生図書委員会活動はあまり例がなく、本校での事例を報告した。

学校教育における図書館の必要性は誰もが認めるところであろう。小・中・高等学校においては1997年の学校図書館法改正によって、12学級以上の規模の学校には司書教諭を配置することが定められており、大学においても司書が図書館の書籍選定に関わることが多い。

しかしながら高専の場合、工業に関する専門書の充実はもちろん、高校の年代を対象とした読書意欲や知的好奇心を持たせるような蔵書構成が必要であり、大学図書館・高校図書館や公共図書館とは違う役割が求められる。

上記のような学生図書委員会の活性化、学生による選書は、図書館の充実や利用促進はもちろん、学生の自主性の涵養という点で、課外活動の一つとしても有用であると考えられる。

参考文献

- 1) 図書館協会：「日本の図書館」(2010)の全国図書館統計など。2009年度の学生対象貸出数は奈良高専15千点、学生数などから単純には比較できないが、沖縄高専41千点、豊田高専38千点、香川高専(高松・詫間2館合計)20千点に続き、上位に位置する。
- 2) 馬場俊明編著：「図書館資料論」、JLA図書館情報学テキストシリーズII 7 [シリーズ第2期](2008)、p169、p175など。